

ロタウイルスワクチン定期予防接種のご案内

予防接種法に基づく定期予防接種を実施します。予防接種はお子さんを病気から守るため、また周りへの感染症の拡大を防ぐために必要なものです。予防接種の目的や内容をよく理解した上で、お子さんの体調の良いときに受けましょう。

- ① **対象月齢** 出生6週0日後～
 ② **接種時期・回数** ワクチンによって回数が異なります。

ワクチン名	ロタリックス	ロタテック
接種時期	出生6週0日後から24週0日後	出生6週0日後から32週0日後
	※標準的な接種時期として、どちらのワクチンも、初回接種を、生後2か月から出生14週6日後までにします。	
接種回数	2回接種（27日以上の間隔をあける）	3回接種（27日以上の間隔をあける）
接種後、特に注意する事	どちらのワクチンも、接種後（特に1～2週間）は腸重積症（後述）の症状に注意し、症状が見られた際には、すみやかに接種した医療機関を受診してください。	

※出生0日後、出生0週●日後は、出生日の翌日を1日後として算出。

出生6週0日後とは、生まれてから6回目の同じ曜日。出生32週0日後とは、生まれてから32回目の同じ曜日。

出生14週6日後とは、生まれてから15回目の同じ曜日の1日前を示します。

③ ロタウイルス胃腸炎とは

口から侵入したロタウイルスが腸管に感染して発症します。

感染力が非常に強く、手洗いや消毒などをしっかりしても、感染予防をすることが難しいため、乳幼児のうちに、ほとんどの子どもが感染します。

下痢や嘔吐は1週間程度で治りますが、下痢、嘔吐が激しくなると、脱水症状を起こす場合もあり、乳幼児の急性胃腸炎の入院の中で、もっとも多い感染症です。一生のうちに何度も感染するウイルスですが、初めてロタウイルスに感染した時は、特に重症化しやすく、まれに脳や腎臓に影響をおよぼすこともあり、注意が必要です。

生後、すぐに感染する場合もあるので、ワクチンの接種は、早い時期に完了させます。

④ ワクチンについて

ロタウイルスワクチンは2種類あり、どちらも生ワクチン（弱毒化したウイルス）で、飲むワクチンです。2種類とも、予防効果や安全性に差はありませんが、接種回数が異なります。他のワクチンとの接種スケジュールなどを考慮して、どちらかのワクチンを選んでください。

医療機関ごとに取り扱うワクチンが異なるため、予約の際に、ワクチンの種類を確認するようにしてください。

途中からワクチンの種類を変更することはできません。最初に接種したワクチンを2回目以降も接種します。異なるワクチンを接種した場合、やむを得ない事情があると市が認める場合を除き、定期接種の対象外（自費）となります。

このワクチンは、ロタウイルス胃腸炎の発症そのものを7～8割減らし、入院するような重症化は、そのほとんどが予防できます。ただし、ロタウイルス以外の原因による胃腸炎には予防効果を示しません。

裏面をご覧ください

⑤ ワクチンを接種する前

赤ちゃんのお腹がいっぱいと、上手にワクチンが飲めない場合がありますので、接種前30分ほどは授乳を控えるようにしてください。上手に飲めるよう、医師、看護師の指示に従ってください。

なお、ワクチンがうまく飲めなかったり、吐いてしまった場合でも、わずかでも飲み込みが確認できていれば、ワクチンの効果に問題ありませんので、再度接種（費用自己負担）する必要はありません。

⑥ ワクチンを接種した後

接種直後は、医療機関で30分ほど様子を見てから帰宅してください。

ワクチン接種後2週間ほどは、赤ちゃんの便の中に、ワクチンのウイルスが含まれることがあるため、おむつ交換の後など、ていねいに手を洗ってください。

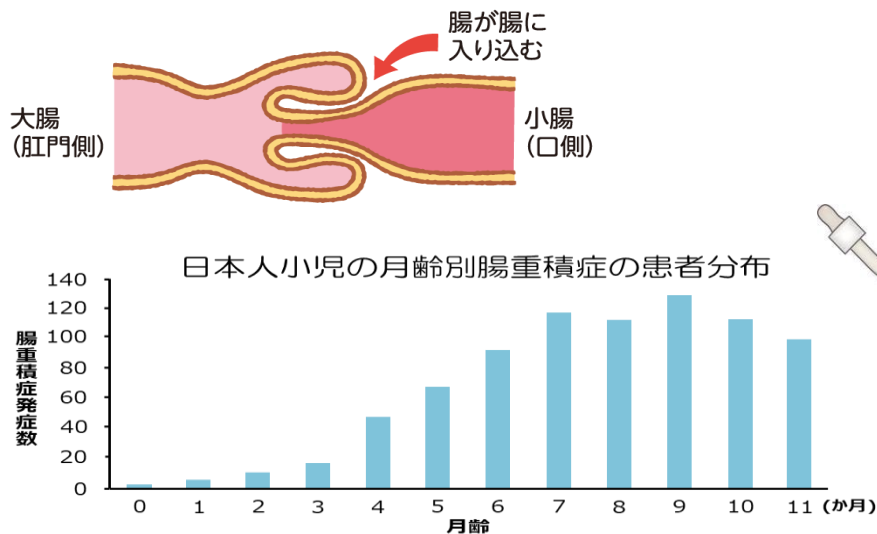
高熱、けいれんなど、異常を感じた場合は、すぐに医師の診察を受けてください。

⑦ ワクチンの副反応 腸重積症（ちょうじゅうせきしょう）について

腸重積症とは、腸が腸に入り込み、閉塞状態になることです（下図）。

0歳児の場合、ロタウイルスワクチンを接種しなくても起こる病気で、もともと、3～4か月齢ぐらいから月齢が上がるにつれて多くなります（下のグラフ）。

早めに接種を開始し、完了させることがすすめられています。



腸重積症は、手術が必要になることもあります。発症後、早く治療すれば、ほとんどの場合、手術をせずに治療できます。以下のような症状が一つでも現れたら、腸重積症が疑われます。すみやかに医療機関を受診してください。

- 泣いたり不機嫌になったりを繰り返す
- 嘔吐を繰り返す
- ぐったりして顔色が悪くなる
- 血便がでる

R3.4.1

<お問合せ先> 伊那市役所健康推進課予防係 電話0265-78-4111 内線2332